西のナメ沢遡行記録

遡行日：平成２３年６月１９日（日）
パーティーメンバー
Ｌ：平本　三浩
　　木下　和男
　　安藤　雅彦
Ｒ：早川　尚武

「西のナメ沢なんか、わざわざ行く人なんかいないよぉ、みんな東のナメ沢に行っちゃうもの。」企画立案者　平本さん開口一番のコメントである。そんなにマイナーなんだ。マイナー志向が強い自分としては、かえって興味が惹かれるので、余計に楽しみになった。さてさて、どんな遡行になるのかな。

６月１８日（土）
２１：３０　木下さん、早川宅で合流
２１：４５　海老名駅西口集合、出発
００：２０　道の駅　みとみ到着

「山ヤなんて、いい加減なヤツが多いからさ、時間前じゃ誰も来ていないよ。」と木下さん。そんな事はなく、予定時間前に集合完了し、無事出発。夕方から、時折雨がパラついていたが、道の駅みとみに着いた時には止んでいた。幸先が非常によろしいじゃありませんか。

１９日（日）天候　曇

４：３０　起床　朝食後　駐車場まで移動
５：５０　駐車場出発
６：４０　川原
７：２０　山の神の祠
８：３５　西のナメ沢　出合い

林道を歩き、吊り橋を渡り、すかさず右の踏み跡を辿って、東沢の川原へ降りる。川原で沢靴に履き替えて、入渓準備。所々荒れた山道を辿る。山の神の祠の辺りから、沢沿いを歩くようになる。ホラノ貝沢、東御築江沢乙女ノ沢、そして東のナメ沢の出合いを見つつ、目的地へと進む。

山の神の祠

東のナメ沢　Ｆ１

目的の西のナメ沢に到着。木下さん、まずはフリクションの具合を確かめてすかさずトップで取り付く。自分はこの日、沢筋に降りてから沢靴の異常にようやく気が付いた。フェルトの摩耗が進行していて、グリップが悪い。足下が気になって、どうにも登りに集中できない。装備のチェックを怠った結果だから自業自得。なんとか１日騙し騙し行くしかない。

「滑りやすいなぁ。」と言いつつ木下さん、ロープを伸ばしていくが、どうしても途中で行き詰まる。ピトンを打とうにも、１枚岩でリスが無い。それでもなんとかランニングを２ヶ所ばかり取るが、先に進めず。それでも粘る、まだ粘る。おじさん、頑張るなぁ。

ついに諦めてクライムダウンしてきた時には、取り付いてから１時間経過。さて、そしたらどうするのかな、と思いつつ見ていると。

師匠、やおら靴を脱ぎ捨て裸足で再トライ。なんとびっくり今度はスイスイ。ウッキー、その手がありましたか！　靴のグリップが悪いので、自分も真似した。目からウロコ！こんな気持ちがいいクライミング、した事あっただろうか。

一発目で随分粘ったので、Ｆ１・２段の１段目上部に着いた時には既に１時間半経っていた。２段目もスチールワイヤーがぶら下がっていたけど、そんなものには目もくれず、

水流右側から、フリクションを効かせつつフリーで登る。木下師匠リード。足下がアヤシイ自分は適当に最後から着いていく。

Ｆ１・２段目トライ　１０：３０

続いて２発目、２段・５０ｍ。ここにもスチールワイヤーがぶら下がっている。落ち口辺りの傾斜が立っているので、後半はワイヤーに掴まってよじ登らなければならない。結構かったるい。女性とかにはキツイんじゃないだろうか、と思った。平本さんリード。

この上、更にナメ滝が続いている。

逆層のナメなので、岩場は手が着かず、草付きから行く。草が剥がれれば下まで落ちるので、なんとなく落ち着かない。

名にし負うごとく、源流部までナメ滝が続いている。逆層なので、グリップしないと結構コワイ。今回は、ちょっと消化不良気味になってしまった。自分が悪いからしょうがないけど・・・。

ようやく渓が狭まり、水流も細くなっていく。源流が近い。霧が出てきた。幽谷の景色が趣深い。胸に沁み入る風景。

まさに源流の、湧き出す水を見付けた。
まるで何かの目印のように、ここが終点。
左の尾根に取り付き、詰め上がる。

源　流

１４：００　源流　１９００m地点
１４：３５　稜線

霧の中、一登りで稜線に辿り着いた。林業作業がかなり入っているようで、周囲の樹木が伐採されている。ここから下山。石塔尾根を下るのも､なんとなくダルイので衆議一決、アザミ沢へ下降、森林軌道跡を辿って戻る事にした。作業道がはっきりついている。沢筋も歩きやすく、林道まで楽に下れた。
１５：４５　林道　１７００m地点

林道に出た所から、しばらく下流部へそのまま進む。アザミ沢沿いに林道を辿り、西沢

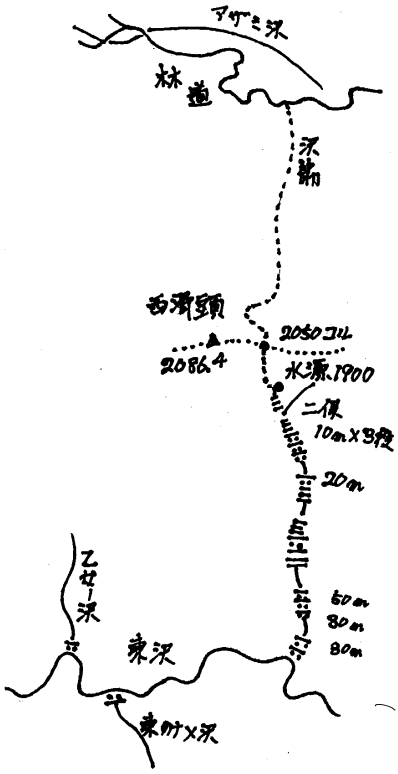
に出て、林道が切れる手前で沢筋に降りる。西沢を渡渉して、森林軌道跡を拾っていく。
　途中、何カ所も崩落しているところがあり、橋の替わりに木が掛け渡してあったが、相当にスリリングであった。
　素掘りのトンネルが２ヶ所あった。通り抜けている最中に落盤が起きたらどうするのよ。昔の人は、こんなところを通って仕事していたんだ。すごいなぁ。

源流遡行

至深山不聞人声
幽谷霧中夢幻景
聴渓音啼鳥耳楽
岳友貌満喜心弾

　ようやくにして、西沢渓谷遊歩道に出たのが１７：３０。今日は随分な長旅となってしまいました。ここからは、気楽な道を１時間と少しばかり。薄暗い道を、山賊の一味のように下山の道を急いだ。

遊歩道休憩所　１７：３０



１８：４５　西沢渓谷駐車場到着
　行く前は、そんなに期待する程の沢じゃない、くらいな話だったけど、いやいや、なかなか面白かった。お陰様で、和気藹々とした、楽しく充実した遡行となった。ありがとうございました！